

あかりから広がる総合ソリューション技術

Total Solutions Based on Toshiba Lighting Technologies over 125 Years

巻頭言

東芝照明事業 125周年を迎えて

At Time of 125th Anniversary of Toshiba Lighting Business

東芝の創業者のひとりである藤岡市助が、1890年にわが国で初めて実用的な電球を製造した合資会社白熱舎を興してから、125周年を迎えました。電球は創業当時としては先進的な製品で、藤岡市助は海外に学んでわが国初のエレベーター（1890年に東京 凌雲閣に設置）を設計したり電力会社設立に関与したりした他、工事業者も育成して電球や電気の普及に努め、創業以来、わが国の明るい社会と照明文化の発展に寄与してきました。これが、照明事業を引き継いだ東芝ライテック（株）の原点です。

東芝の白熱電球は過去に“MAZDA（マツダ）”の商標を使用し、その名前を冠したマツダ照明学校を1927年に開設しています。照明学校は欧米に設立されていましたが、マツダ照明学校は照明の研究を行うだけでなく品質の良い照明を普及させることを目的に、事務室や商店、街路、住宅、学校などのモデルルームを備えて現在のショールームの性格を持ち、世界中の照明学校を見るような規模と設備で当時としては画期的なものでした。また、電力会社や工場の技術者に対し照明講習など様々な講習を行っており、大学や高等学校の教員に対する講習会では、長岡半太郎東京帝国大学教授まで顔をそろえていたとのことでした。

わが国初の白熱電球実用化（1890年）や、わが国初の蛍光ランプ製造（1940年）など、数々のイノベーションをもたらした東芝のDNAを東芝ライテック（株）は継承し、近年のLED（発光ダイオード）化による大きな変革のなかで飽くなき探求心と情熱を持って取り組んでいます。2015年を次の125年の新たな起点として“あかり、その先へ”をメッセージに掲げ、過去と未来をつなぎ“モノ”とそれから生まれる“こと”を真の価値と捉えた“モノ+こと”への変革の加速を大きな目標に、125周年記念モデルの商品化や“125周年デジタルアーカイブ”など様々な施策を行っていきます。このアーカイブでは、昭和初期の照明カタログや発明家エジソンへのインタビューを掲載した“マツダ新報”（1914年に前身の東京電気（株）が創刊）などの企業遺産の中で、特に重要と思われる資料、文献、及び写真や、あかりに関する技術を紹介し、わが国の資産として次世代へ引き継いでいきます^(注)。

この特集をご一読いただき、創業以来培ってきたライティングテクノロジーと、環境に優しく便利で心地よい制御やセンサ技術との融合により、あかりから広がる総合ソリューションを提供し、社会に貢献していくという取組みの一端をご理解いただければ幸いです。

(注) http://www.tlt.co.jp/tlt/information/akari_story125/bunken.htm で2015年11月から順次公開。



揖斐 洋一
IBI Yoichi

東芝ライテック（株） 取締役社長 President, Toshiba Lighting & Technology Corp.